

④MIMOレシーバーテスト

メーカー: アジレント・テクノロジー株式会社
型式: N5106A / N7617B

- 2x2までのMIMO信号の作成、出力が可能で、MIMO受信機の試験も可能。
 - 実環境の条件下での検証も可能です。
 - 信号発生器 (N5182A) を使用して、統合／検証段階でのRFテストが実施可能です。
 - 付属ソフトウェアで作成した波形ファイルを再生でき、送信機がなくても受信機のテストが可能です。
 - MIMOレシーバーテストのアナログI/Q 出力などを使用し、受信機がベースバンド部のみの状態から試験を開始できます。

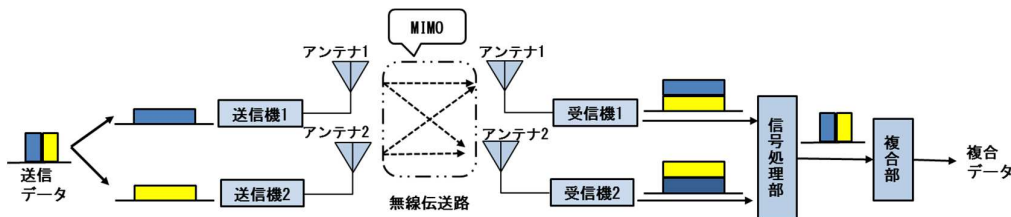
■ MIMOレシーバ・テスト (N5106A)

- MIMOレシーバ・テストは、2x2 (2input、20output) までのMIMO信号の作成、出力が可能で、MIMO受信機の試験が可能です。無線LAN信号のテストケースをカスタマイズして、広範囲のテストパラメータを使用してデザインを実環境の条件で検証できます。大容量の再生メモリにより、長いテストシーケンスを実行して、実環境にきわめて近い信号を再現できます。



■ MIMOとは

- MIMOとは、「Multiple-Input and Multiple-Output」の略で、無線通信において、送信機と受信機の双方で複数のアンテナを使い、通信品質を向上させることをいう。“input” および “output” というのはアンテナを装備した機器を指すのではなく、信号を伝送する無線伝送路を意味している。



■ 特長

- 高度なチャンネルエミュレーション
 - ✓ 最大120 MHzのフェージング帯域幅
 - ✓ フェーダあたり最大24個の経路
 - ✓ シングルチャンネル、デュアルチャンネル、1x2、2x1、2x2 MIMO
- 包括的なチャンネル関連設定
 - ✓ 規格に基づくチャンネルモデルを選択するか、最新の無線フォーマットに合わせて変更
 - ✓ アンテナセットアップに基づいて相関係数を計算
 - ✓ カスタム相関行列に相関係数を入力
- 無線LAN信号の作成
 - ✓ 基本／高度な802.11a/b/g/j/p/n信号の作成
 - ✓ マルチキャリア802.11 a/b/g/j/p
 - ✓ MAC層の構成／シミュレーション
 - ✓ 柔軟な802.11n転送リンクの設定とMIMOチャンネル・シミュレーションの設定

■ 主な仕様

- ベースバンド性能
 - ✓ 最大120 MHzの変調／信号捕捉帯域幅
 - ✓ 1チャンネルあたり512 Mサンプルの再生／信号捕捉メモリ
 - ✓ 最大6つのBBGと8つのフェーダによる干渉／ダイバーシティ/MIMOテスト
 - ✓ 規格に準拠した信号作成：無線LAN
 - ✓ SystemVueソフトウェアとの接続、Signal Studio (N7617B)、または独自のMATLAB®波形の再生
- RF周波数・振幅性能
 - ✓ 100 kHz～6 GHz
 - ✓ +13dBm (1GHzにて) の出力パワー



公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団
社会システム実証センター

〒819-1122 糸島市東1963-4

TEL : 092-331-8510 FAX : 092-331-8515

URL : <http://jiss.ist.or.jp/> e-mail : jiss-itoshima@ist.or.jp

